

夢と情熱をかき立てる人材育成で荷主とのより 良きパートナーシップを築く物流提案の実践を 目指して

太陽運輸倉庫株式会社 (鹿児島西支部)



代表取締役社長 重久 紘三さん 常務取締役 重久 修一さん

太陽運輸倉庫株式会社

本社 / 鹿児島市西別府町2941-14
鹿児島流通業務団地内
代表取締役社長 / 重久 紘三
社員数 / 220名
保有車両 / 168台



「心をつき動かす事にチャレンジし、人生と業界の明日を切りひらこう」。
県職から転身、情熱と強いリーダーシップで業界を牽引する重久社長。



「衝動にかられない人生はつまらない」との熱い思いから、重久紘三社長が県職員から転身、創業した太陽運輸倉庫株式会社は、今年で創業38年。変革の時代、常に革新を求める重久社長の理念のもと、用地拡大・移転、営業エリア拡大、業種の多様化、事業提携…と時代の求める事業を次々と展開し続けてきた。現在、修一氏、陽一氏、三郎氏の三子息が事業に参画、次代へ向けてさらに盤石な経営基盤が築かれている。

21世紀に入りIT革命が大きく進んだ現在、同社が目指しているのは「トータル ロジスティックス ソリューション企業」。つまり、商品管理から配送までをトータルサポートする3PL事業を展開し、その上で顧客ニーズに合わせて新たなサービスを提案できる企業

体であるということ。そのために重久社長が力を入れているのが、社員教育。顧客に追従するスタイルではなく、荷主企業を先導できる高水準の人材養成を目指している。「これからは、荷主のパートナー企業として認められないと、生き残れない」。社員と信頼関係を築き、一人ひとりのモチベーションをさらに高めたい、との思いから、社内にコミュニケーションセンターを開設。教育のための視聴覚機材を揃え、カウンセリングコーナーや談話コーナーなどを設けた。

さらに乗務員のスキルアップと燃費節減のため、今年2月より安全運転管理システムを導入した。急発進、急加速など、車体の揺れを感知すると、映像データとして記録される機能を備えた車載器と分析システムの導入で、ドライバーが従来以上の安全運転を心掛ける

ようになり、無意識の運転習慣を見直すきっかけにもなった。導入から半年たち、事故率は80%減、燃費は5%の改善が見られた。車両の損傷も減り、メンテナンス費、保険料とも削減につながっている。丁寧な運行によって、顧客への対応も丁寧になったとの評価も得ている。なにより、査定の難しい運送の仕事に対して、正當に評価するシステムが構築できたことが、乗務員のモチベーションを高める効果を生んだ。「世の中、多様化して複雑になっているが、変わらないものもある。それは人材育成ということ。社員がロマンを持ち続け、燃焼し続ける企業風土をつくるのが私の務め」。創業以来、変わらない重久社長の信条だ。

このほか、現在の取り組みとして、環境対策がある。168台所有する車両のうちハイブ

リッド車が8台、天然ガス車が2台。将来、車両全体の30%を低公害車に変更していく計画である。また産業廃棄物回収や引っ越しによって生じるゴミの分別収集スペースのエコセンターも新設した。

県トラック協会の会長として会員へ伝えたいメッセージは「見える、表現する、行動する組織であれ」ということ。「安全運転管理システムの導入や3PL事業の展開など、ある程度の事業規模に到達しないとできないことかもしれません。でも、クルマー一台から始めた私がここまでやってこられたのです。やってやろうという心意気が大切です。人との出会いを大切に、自分を磨いてほしい」。「衝動」をもって事にチャレンジし、時代を切りひらく人材が後に続いてほしい—県ト協会長としての重久社長の願いだ。



本社事務所



本社物流センター



環境に配慮し建設されたエコセンター



ハイブリッド車等の低公害車も積極的に導入している



3PL事業でトータル物流をコーディネートしている